

教養科目	社会科学系科目	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力。そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆけ力が身に付いている。	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自然科学系科目	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能。また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と獨創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身に付いている。	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	初習外国語系科目	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。 一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力。語外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性。語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身に付いている。	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	総合系科目	教室外活動の実施。大学内外からの講師の積極的登用。授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり「あらたな社会」を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの総合系科目である。	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な視点を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身に付いている。	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
基盤キャリア教育科目	「自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな大学生活を送ったらよいか、どんな職業選択をするか」を意識しながら学び、職業や働き方への理解や自己理解を深めていく。座学だけでなく、グループワークやインタビュー、外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持ちながら学ぶことを重視し、学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成を図る。	学生の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度(キャリアデザイン能力)の基礎を育成するための科目である。	変化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指す姿勢、職業や働き方への理解、自己理解を深めるために必要な知識・技能等を修得し、自らキャリアデザインを描く基礎が身に付いている。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
専門導入科目													
科目	担当者氏名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	α	β	γ	A	B	C	D	E	
教育原論	上原秀一・和井内良樹	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴について、基礎的な知識を修得する。	「基盤教育科目」の教育学部「専門導入科目」の必修科目である。教員免許を取得するための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(D)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	
教育心理学	橋川眞彦	教育心理学の主要な内容である幼児・児童・生徒(障がいを持つ者を含む)の成長と発達、学習と学習指導、パーソナリティと適応、測定と評価について、講義する。	「基盤教育科目」の教育学部「専門導入科目」の必修科目である。教員免許を取得するための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	教育心理学の基礎的知識や研究法を学習して、幼児・児童・生徒を理解するために必要な教員としての最低限の資質・能力を身に付ける。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	

<p>教育課程及び方法・技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>	<p>山剛史・川島芳昭</p>	<p>授業では、①教育課程・方法の意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行う。</p>	<p>「基礎教育科目」中の教育学部「専門導入科目」の必修科目であり、教員免許を取得するための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」「(B)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の姿態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」「(D)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」「及び「(E)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」</p>	<p>(1)教育課程とは、学校による子どもの人格形成設計ないしは子どもの人格と学力の統一発達のプログラムであることがわかる。 (2)教育方法は、子どもの実態の指導の方向性により創造されるものであることがわかる。 (3)情報機器の教育的利用の意義を理解し、的確に利用することができる。</p>	<p>0.0</p>	<p>0.0</p>	<p>0.3</p>	<p>0.1</p>	<p>0.2</p>	<p>0.2</p>	<p>0.0</p>	<p>0.2</p>
<p>教育課程及び方法・技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>	<p>青柳宏・川島芳昭</p>	<p>グローバル化する世界における内外の学校改革の動向を検討することを通して、望ましい教育課程・教育方法のあり方について、また教育課程の編成の方法及び教材の活用の仕方(情報機器の活用を含む)について考察していく。</p>	<p>「基礎教育科目」中の教育学部「専門導入科目」の必修科目であり、教員免許を取得するための必修科目である。専門教育学習・教育目標のうち「(B)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の姿態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」「及び「(E)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深</p>	<p>教育の目的との関係性において教育課程のあり方とその意義を理解し、さらに教育課程の編成の方法について理解する。また教育課程を実現するための教育方法の望ましいあり方を理解する。さらに教材の活用の仕方、情報機器の活用の仕方について理解する。</p>	<p>0.0</p>	<p>0.0</p>	<p>0.3</p>	<p>0.1</p>	<p>0.2</p>	<p>0.2</p>	<p>0.0</p>	<p>0.2</p>
<p>特別支援教育基礎論</p>	<p>沼澤慎一・池本喜代正・梅永雄二・司城紀代美</p>	<p>本授業では、主として初めて特別支援教育を学ぶ人を対象に、障害の捉え方、障害を有する子どもたちの発達特性と教育の基礎的な事項について概説し、特別支援教育についての基本的知識の獲得と関心を深めることを目的としている。本授業は、これから特別支援教育の専門科目を学ぶための入門編となる内容であるとともに、特別支援学校での介護等体験に参加する学生にとっては、障害を有する子どもたちに対する基本的な理解を深めるための事前指導(事後指導)となるように留意しているものである。</p>	<p>教員免許取得のための選択必修科目であるが、特別支援教育は、学校種や科目を越えて、教師を目指すすべての人が学ぶべき事柄であると思われる。また、特別支援教育専攻の専門科目へ導く基礎的内容でもある。</p>	<p>障害の捉え方、障害のある子どもたちの教育制度や障害を有する子どもたちの発達特性など基礎的な事項について理解・説明することができる。</p>	<p>0.0</p>	<p>0.0</p>	<p>0.0</p>	<p>0.4</p>	<p>0.2</p>	<p>0.2</p>	<p>0.1</p>	<p>0.1</p>
<p>生涯学習概論</p>	<p>佐々木英和</p>	<p>教育そのものを根底から問い返すという問題意識を常に背景に置きながら、「生涯学習」が、どのように理解され、どのようにして実践されるべきかについて、受講者自身が考えていけるように講義する。</p>	<p>講義を受けている時間だけが学習時間だと限定してしまうことなく、日常生活の中で普段から、「いつでも、どこでも、だれからでも、なにからでも、どのようにでも自ら学び取っていく貪欲さを持つようにする。</p>	<p>授業で重視している目標は、①生涯学習および社会教育についての基礎知識の習得、②生涯学習時代への主体的・能動的対応として「考える方法」を考えること、③生涯学習実践の中心的課題として「自分自身を学ぶ」ということの学習、の3点である。</p>	<p>0.0</p>	<p>0.0</p>	<p>0.0</p>	<p>0.1</p>	<p>0.2</p>	<p>0.1</p>	<p>0.5</p>	<p>0.1</p>

現代福祉事情	長谷川万由美	社会福祉法では、地域住民の参加による地域福祉の推進や個人の選択に基づくサービス利用への移行が定められている。つまり、ひとりひとり、地域福祉を作っていく主体であり、また、自分が利用したいサービスを自ら選択していく主体となった。そこで、この授業では、みなさんが、地域福祉を作り、自ら利用する主体として、福祉を考えていく上で必要な知識や考え方を身につけてもらえるような内容で授業をすすめる。	専門科目の学習に必要な現代社会に対する科学的な視点を醸成する。専門教育学習・教育目標のうち「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもつ児童生徒に接することができる」、「(B)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(D)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。』及び「(E)他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える	福祉を自分の問題として理解し、ニーズに応じた福祉サービスが選択できるための知識を身につける。 ・現代社会で起きている様々な社会的な問題の背景を理解する。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	0.0	0.3	0.2
環境教育	松居誠一郎	この授業では環境、環境問題および環境教育の基礎について理解を深めます。	現代社会の直面する課題について理解を深め、判断力を養う。	環境問題についての一般的な知識を獲得すること、環境教育の意義と方法について基礎的理解ができるようになります。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	0.0	0.3	0.2
情報教育	川島芳昭	小・中・高等学校の全ての教員に必要な情報教育の基礎について講義・演習します。具体的には情報教育の目標・内容、教育の情報化の状況、情報活用能力の育成、情報モラル等について取りあげます。また、教科の学習指導へICTを活用する基礎的な方法について演習します。	教職・教科に関する知識を修得し、発達段階に応じた教材を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。専門教育学習・教育目標のうち「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもつ児童生徒に接することができる。」、「(B)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。』及び「(D)学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができ	本授業の到達目標は、次の通りです。 ・学校教育における情報化の状況と情報教育の目標・内容を説明することができる。 ・学習指導へICTを活用する基礎的な方法が身についている。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0
健康教育	小宮秀明・久保元芳	児童生徒の健康と安全についての知識を主体、環境、行動の面から総合的に学ぶ。また、学校や地域などの現場で健康教育の指導者として身につけておくべき理論や指導方法についても学ぶ。	基礎教育課程中の専門導科目であり、小・中・高等学校における児童生徒の問題となっている体力低下、健康問題や疾病予防に関する基礎的な知識を養成する。	・子どもの心身の健康に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。 ・子どもの健康を守り、育てるための理論や方法について理解している。 ・学習した知識を基に、学校現場や地域で実践できる能力を身につけている。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1
小学校外国語活動の理論と実践	渡辺洋行、他	小学校外国語活動の基礎を理論と実践の両面から学ぶ。	教員採用条件として重視されている小学校外国語活動の指導技術の基礎を身につける。教員養成課程の選択必修の専門導科目で	小学校での実践を分析、検討し、現実即した授業を計画・実施・振り返りの意欲が身についている。小学校外国語活動の実践に必要な基礎知識、授業実践についての考察力、現実即した授業を計画・実施し、それを振り返り、さらに授業改善ができる基礎能力が身についている。	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2
小学校外国語活動の理論と実践	山野有紀	小学校外国語活動の基礎を理論と実践の両面から学ぶ。	教員採用条件として重視されている小学校外国語活動の指導技術の基礎を身につける。教員養成課程の選択必修の専門導科目で	小学校での実践を分析、検討し、現実即した授業を計画・実施・振り返りの意欲が身についている。小学校外国語活動の実践に必要な基礎知識、授業実践についての考察力、現実即した授業を計画・実施し、それを振り返り、さらに授業改善ができる基礎能力が身についている。	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2
グローバル化と外国人児童生徒教育	小原一馬・田巻松雄	授業では、①外国人児童生徒教育の意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行う。	教職に関する共通的・基礎的内容の学習をふまえ、現代的な教育課題に的確に対応するための発展的内容であるが、国際的に活動する人材の開発にかかわる内容でもある。専門教育学習・教育目標のうち「(B)子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。』と深い関	(1)外国人児童生徒教育の現状と課題がわかる。 (2)外国人児童生徒教育問題の論点がわかる。	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0